【資　料　編】

現況写真

交流機能

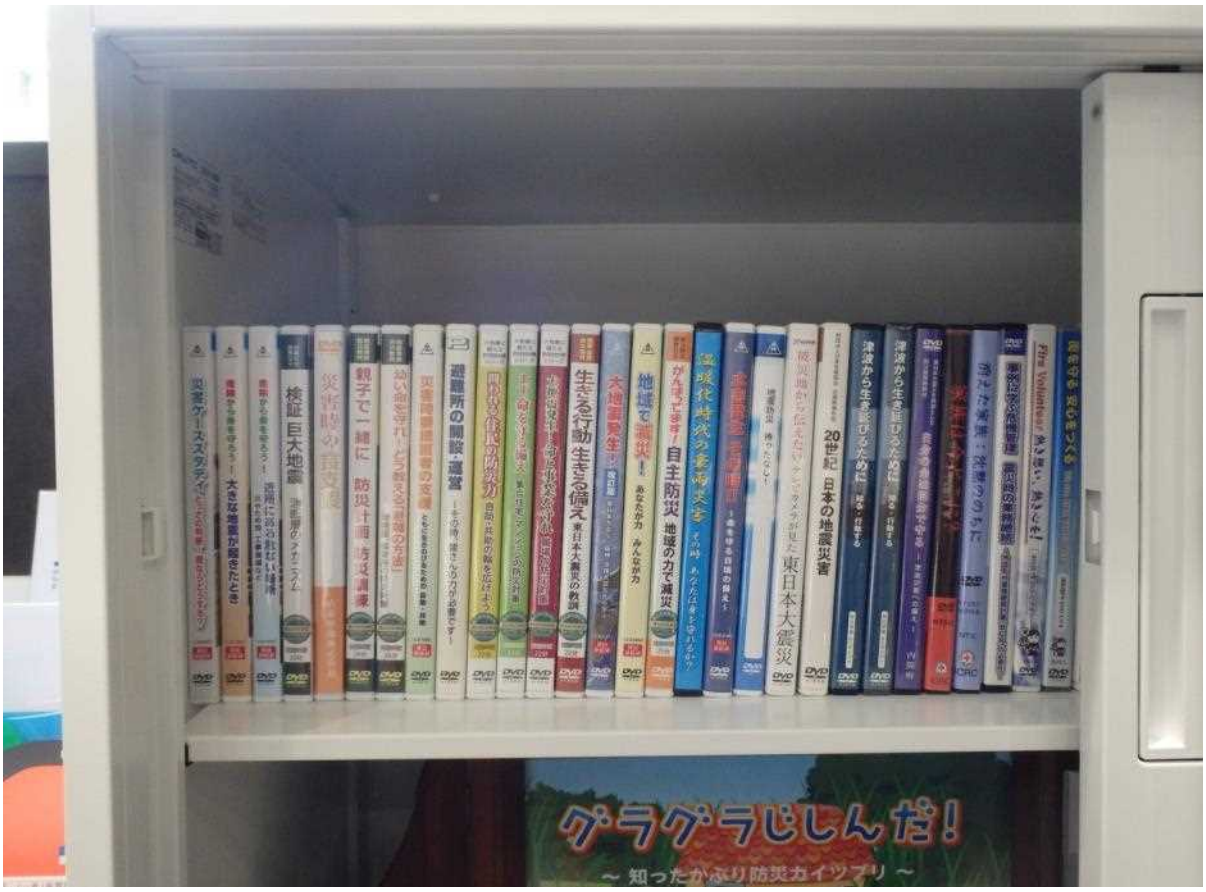
エントランスホール全景（プラットフォームづくりに向けたスペースの提供）

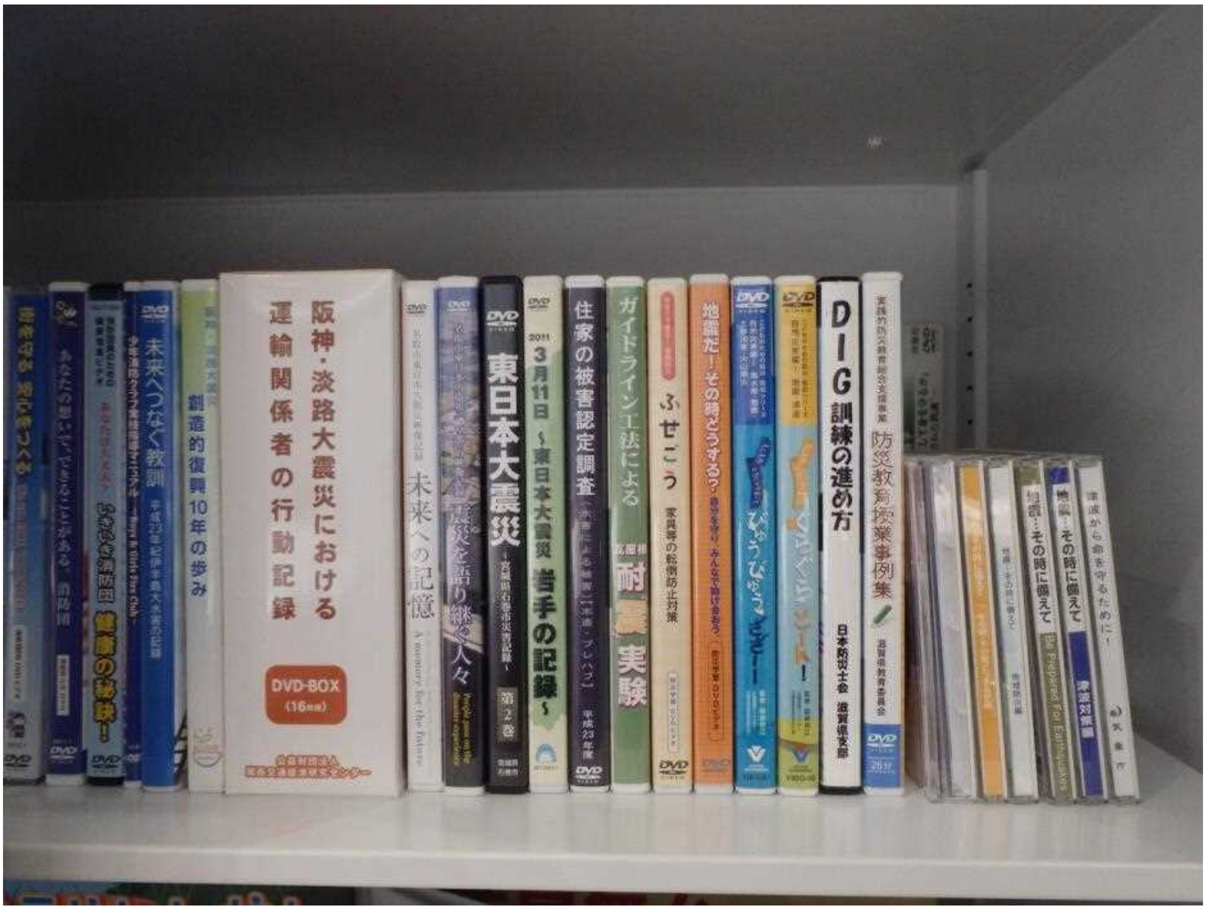
閲覧用書籍

なるほど知図帳
日本の自然災害
危機の対策
アクションリサーチ
夢みる防災教育
豪雨の災害情報学
自然災害の予測と対策
危ない地形・地質の見極め方
国会事故調
中間・最終報告書
プロメテウスの罠
地震のひみつ
クロスロード・ネクスト
地域防災力を高める

消防白書
消防白書
市町ハザードマップ 1
市町ハザードマップ 2
市町ハザードマップ 3
市町ハザードマップ 4
市町ハザードマップ 5

貸出用 DVD


検証 巨大地震
親子で一緒に
避難所の開設・運営
生きる行動 生きる備え
東日本大震災の教訓
地域で減災！
自主防災 地域の力で減災
20世紀 日本の地震災害
東日本大震災
津波から生き延びるために
グラグラじしんだ!
～ 知ったかぶり防災カイツブリ ～

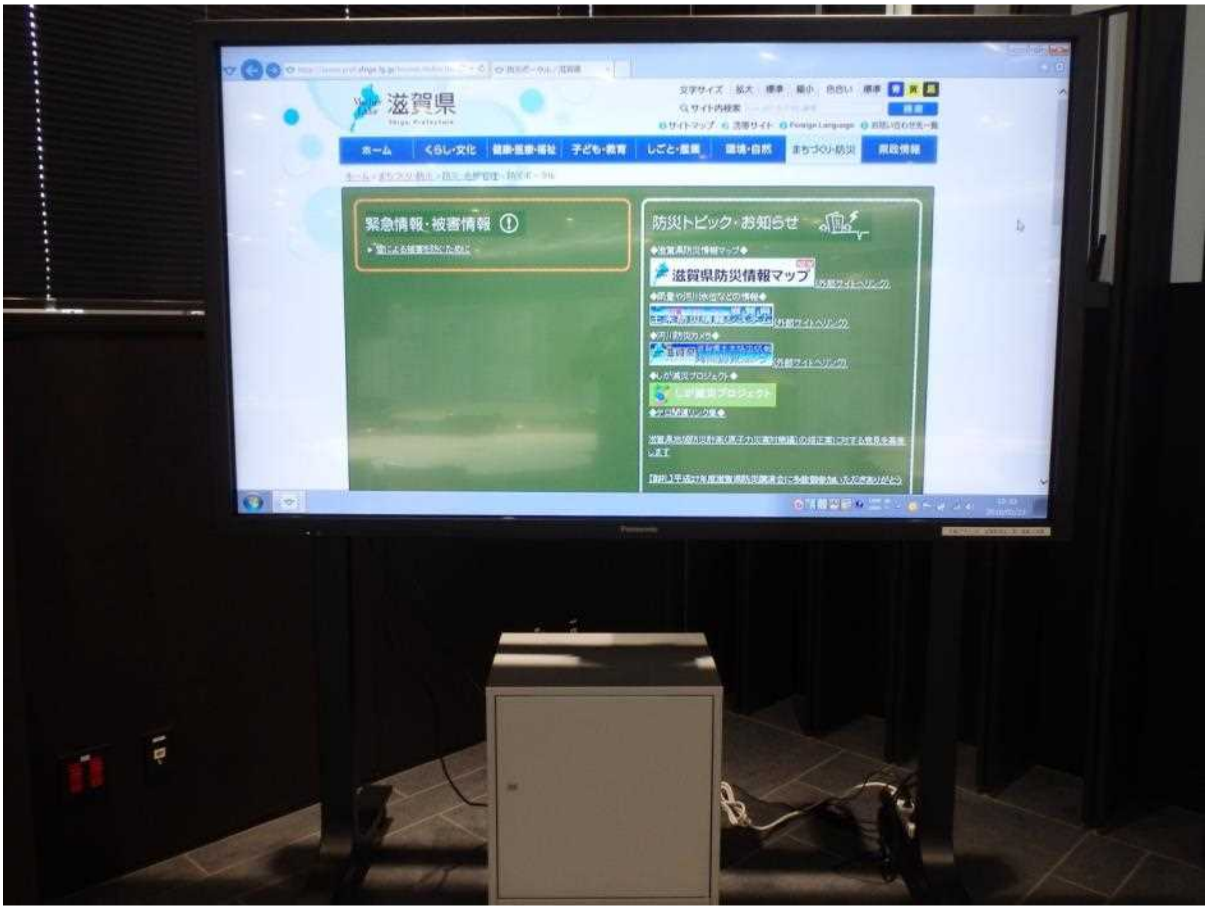

未来へつなぐ教訓
創造的復興 10年の歩み
阪神・淡路大震災における運輸関係者の行動記録
DVD-BOX
(16枚組)
未来への記憶
A memory for the future
東日本大震災
第2巻
2011 3月11日 ～東日本大震災 岩手の記録～
住家の被害認定調査
ガイドライン工法による
耐震実験
ふせごう
家具等の転倒防止対策
地震だ！その時どうする？
DIG 訓練の進め方
日本防災士会 滋賀県支部
防災教育授業事例集
滋賀県教育委員会
地震…その時に備えて

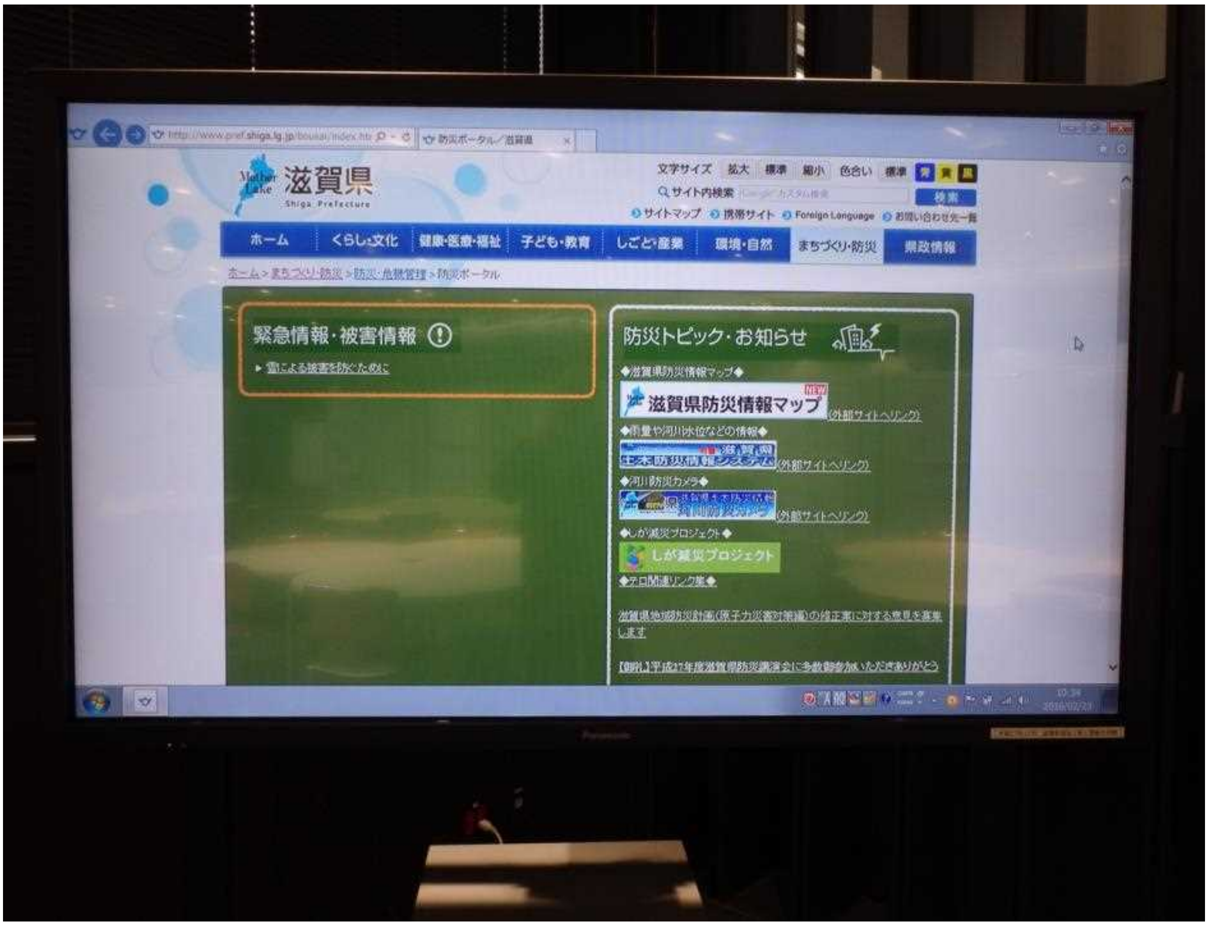
貸出用紙芝

各種パンフレット

展示機能

常設展示（80 インチマルチタッチスクリーン液晶ディスプレイ）





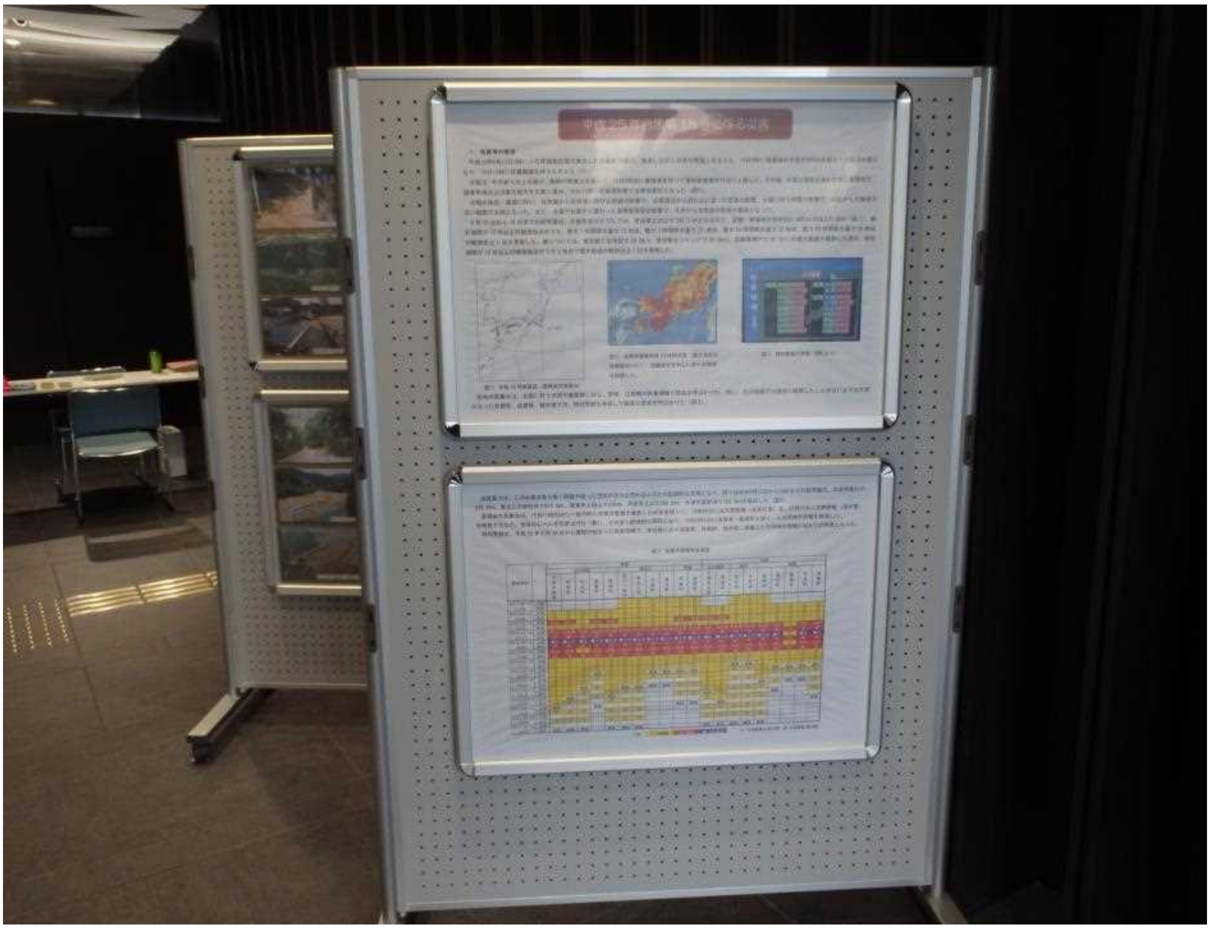
手作りかまどベンチ（模型）

大型パネル（土手の花見）

土手の花見
いつ発生するかわからない危機事案に対して、常に高い意識を持ち続けることは簡単なことではありません。また、危機事案発生時には普段行っていることも普段どおりに行うことが難しく、ましてや普段全く行っていない危機対応をいきなり行うことは大変困難です。
「先人が土手に桜を植えた。春に桜の花が咲くと大勢の人がその土手に集い、花見を楽しむ。そのことで、冬の間に霜柱で緩んだ土手が見事に踏み固められ、梅雨の出水期に備えることができる。」
これが「土手の花見」といわれる、防災を意識させないで土手を強化する先人の知恵です。
地域における減災・防災という社会的活動を息の長いものとするためには、防災を生活の中の様々な活動から取り分けるのではなく、それらの中に溶け込ませる必要があることを示唆しています。
そのため、普段の生活と防災対策を切り離さないで、防災・減災を意識させないまま防災・減災に誘う「生活防災」が重要となるのです。

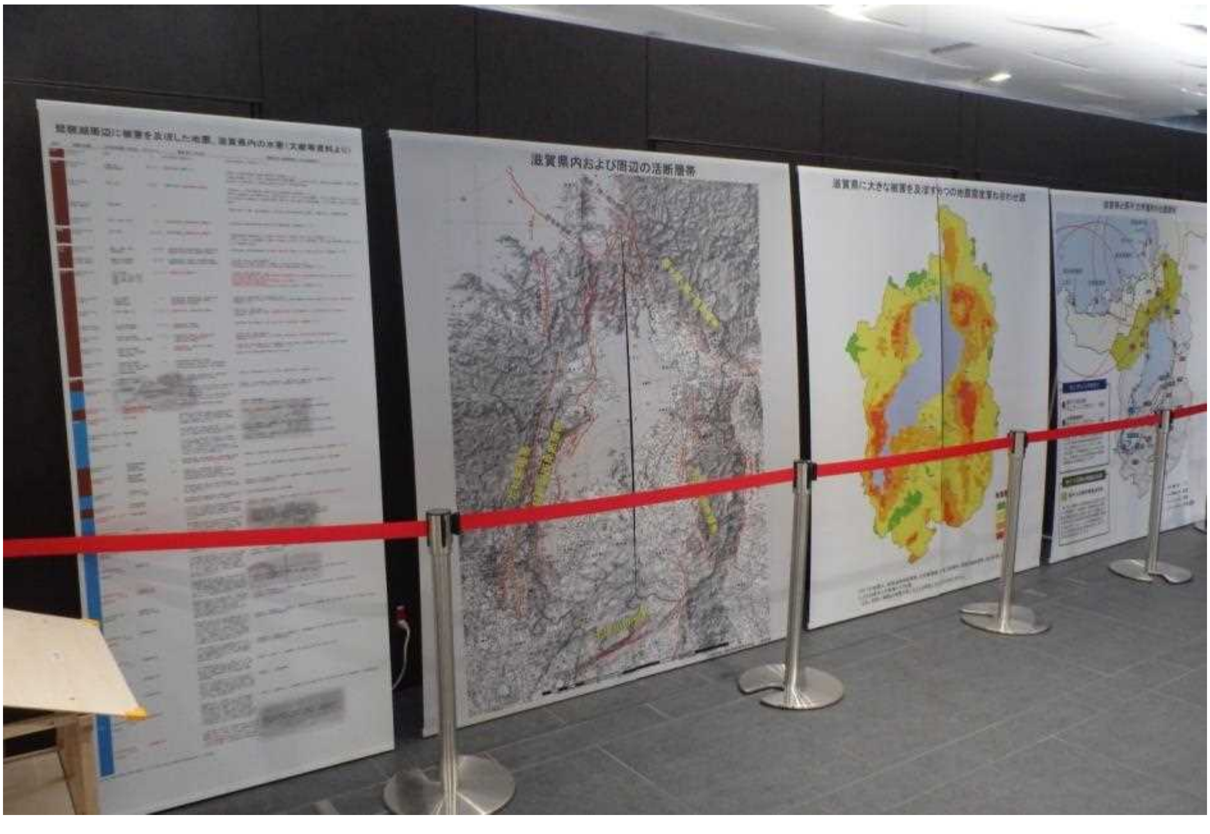
各種パネル展示

各種パネル展示（平成 25 年台風第 18 号）



大型パネル（姉川地震）

大型パネル（災害年表、活断層帯、地震震度重ね合わせ図、原発との位置関係）

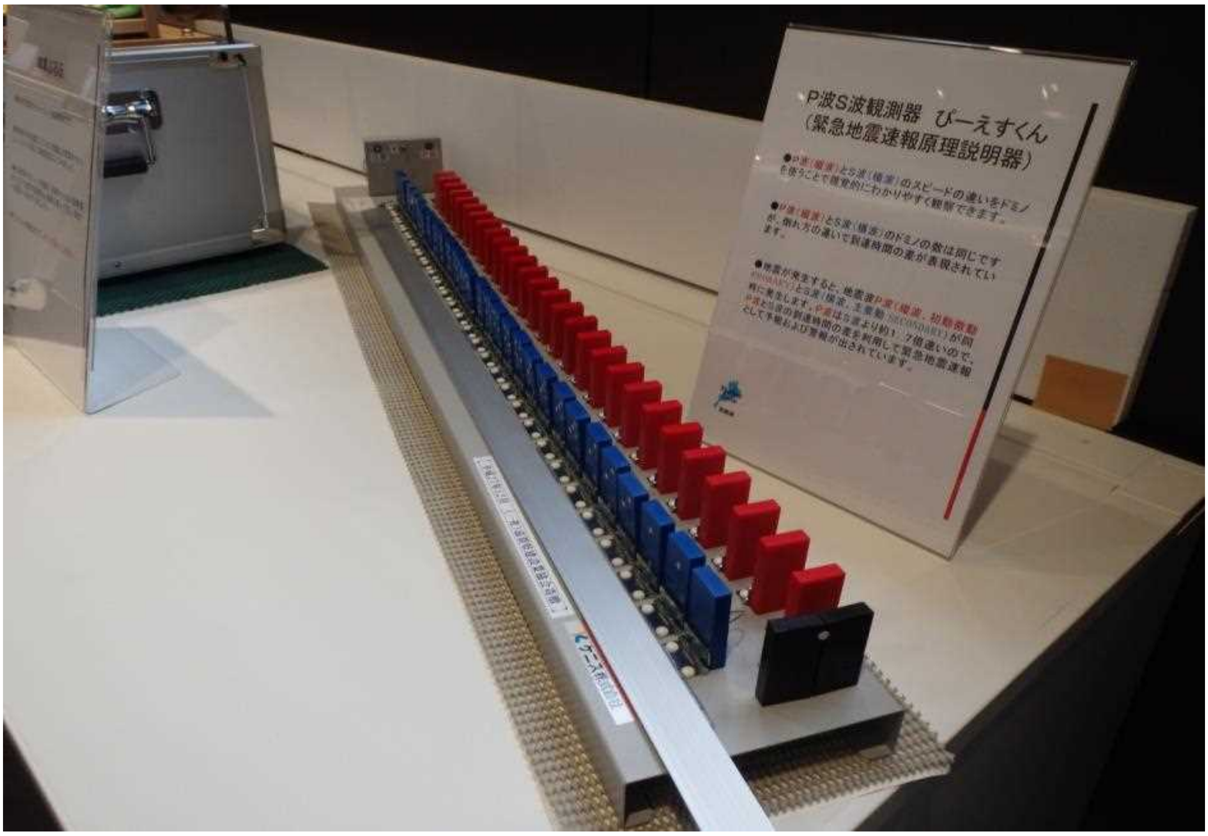


大型パネル（災害年表、活断層帯、地震震度重ね合わせ図、原発との位置関係）

免震構造解説パネル

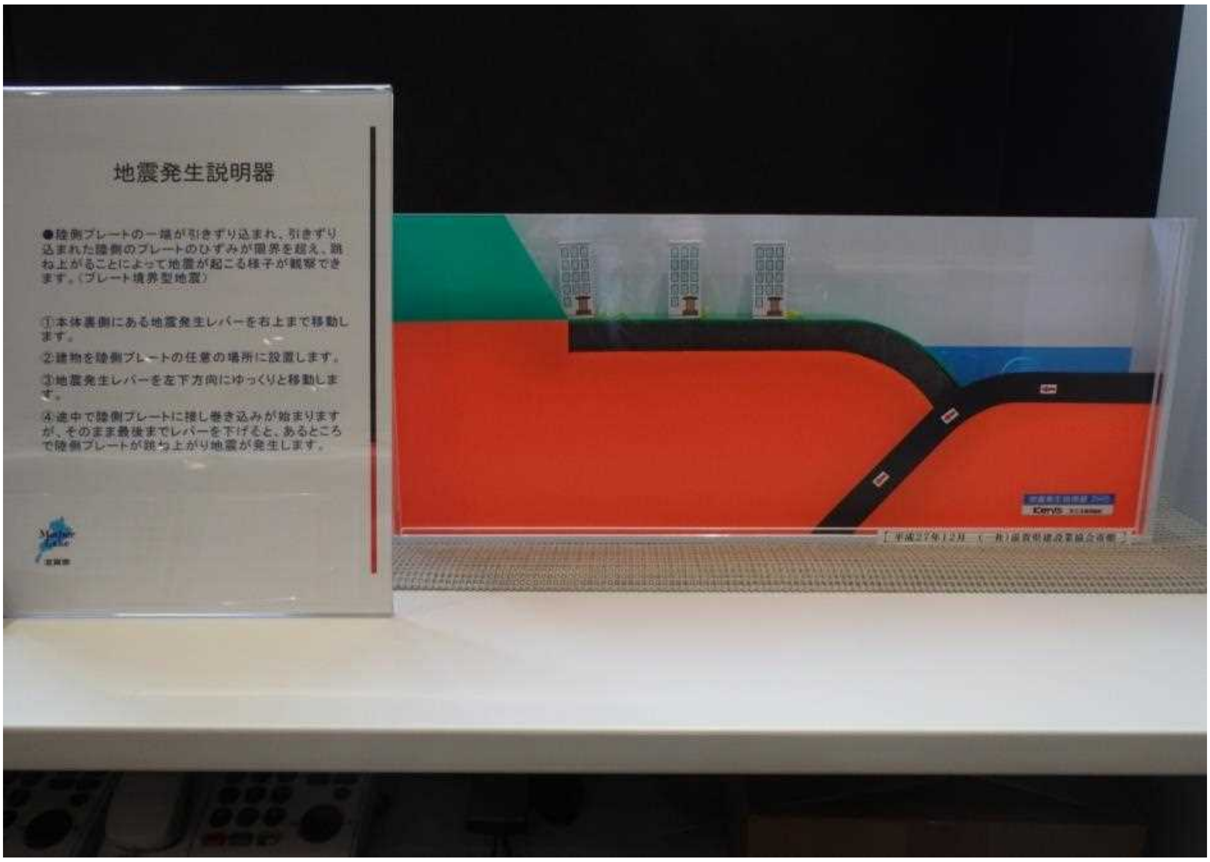
みんなで作る展示コーナー

体験型実験装置（P 波 S 波観測器ぴーえすくん（緊急地震速報原理説明器））



体験型実験装置（液状化実験装置　リクイファくん）

体験型実験装置（地震発生説明器）



体験型実験装置（家具ぶるる）

体験型実験装置（木造２階建住宅倒壊模型　ピノキオぶるる）

体験型実験装置（長周期振動実験器）

体験型実験装置（製品版紙ぶるる）

家庭における備蓄品例

非常持ち出し品例

放射線測定器

マルチコプター

用語解説

（１）（手作り）かまどベンチ

かまどベンチとは、普段はベンチとして使い、災害時には炊き出し用のかまどとして使うことができるものです。

かまどベンチづくりはただ単に災害時に役立つハードを作るというものではありません。その製作の過程を通して人々のつながりを強め、災害時を想像させる機会をつくり、訓練の場となるなど、様々な副次的な効果を発揮し、防災・減災の担い手が広がっていく力を持つ方策です。

関わった人たちが一緒になって作り上げることで、かまどベンチが防災・減災活動と連携・協働の象徴的な「コモンズ」となり、これを核に平常時の様々な防災・減災活動を組み込むことができる可能性を持っています。かまどベンチづくりは、「ものづくりであって、まさに人づくりであって、それがまちづくりにつながる」取組と言えます。

（２）リスク・コミュニケーション

リスク・コミュニケーションとは、危機対応に関する「個人、機関、集団間での情報や意見の交換過程」であると言われています。

このことは、県民、事業者、行政担当者などの間で、危機に関する情報や意見をお互いに交換し、自分たちには何が最適な行動かを主体的に考える中で、相互の総意によってリスクの軽減につなげる考え方・取組のことです。

（３）防災情報リテラシー

情報リテラシー(literacy)とは、情報を自己の目的に適合するように使用できる能力のことです。「情報活用能力」や「情報活用力」、「情報を使いこなす力」とも表現されます。したがってここでいう「防災情報リテラシー研修」とは、防災に係る情報を主体的に選択、収集、活用、編集、発信する能力と同時に、情報機器を使って論理的に考える能力を含み、県が有する様々なコンテンツを紹介、解説するとともに、利用できる能力の習得をめざした研修等を実施することを指します。

（４）防災カフェ

自然災害のみならず、発生が危惧される様々な種類の危機事案について、その話題に興味を持つ防災関係者や一般県民が定期的に集い、気軽に語り合う機会を提供するものです。

（５）プラットフォーム

プラットフォームとは、「土台」や「基盤」という概念を表す言葉であり、その語彙は「ジャパン・プラットフォーム（Japan Platform)」を参考としています。ジャパン・プラットフォームは、国際協力NGOが、地域紛争や自然災害への国際緊急援助活動を効率的・迅速に進めるために外務省、経団連（当時)、大学、財団などと協働して2000年８月に設立した緊急人道援助組織であり、ここでは「公共的な活動を民間団体が行えるための土台・基盤、官民協働のための枠組み」などの意味で使用しています。

今までは、県域での危機事案への取組に関しては、中心となって全体をまとめるプラットフォームがないため、先進的な地域の取組が共有化されず、広く県内で有効活用されているとは言えませんでした。

そこで、研修・交流機能を、市町域を超えた県域での「危機事案への対応を視野に入れたプラットフォーム」とすることで、県内の立場を異にする多様な団体や組織、個人が集い、ここに来れば県内外の危機事案への取組の様々な情報を入手し、交流できることとし、災害対策本部機能と合わせて、安全・安心のメッカとなることを目指します。

（６）防災ダック

「防災ダック」は、安全・安心の「最初の第一歩(ファースト・ムーヴ)」を、子どもたちが、実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学んでもらうための幼児向け防災教育用カードゲームです。カードには、防災や日常の危険から身を守ることを学ぶものだけではなく、挨拶やマナーといった日常の習慣について学べるものも含まれています。子どもたちが、楽しみながら繰り返しゲームをするうちに安全・安心への「最初の第一歩」が自然と身につくように作られています。

（７）ＤＩＧ

リスク・コミュニケーションの手法のひとつ。災害図上訓練DIG（災害想像ゲーム(Disaster（災害)、Imagination（想像力)、Game（ゲーム）の略とされる))は、地図を用いて地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シート、ペンを用いて、危険が予測される地帯または事態をシートの上に書き込んでいく訓練のことです。これが、いわばハザードマップの役割を果たし、事前に危険を予測できると同時に、避難経路、避難場所、即応性ある避難準備の徹底、地域住民や関係機関において如何なる対策や連携が必要かの検討など、参加者の間で共有することが可能となるとされています。

（８）ＨＵＧ

避難所運営ゲームHUGは、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱え

る事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

HUG は、H（hinanzyo 避難所）、U（unei 運営）、G（game ゲーム）の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味でもあります。

（９）フィールドレポーター制度

琵琶湖博物館の交流・サービス活動のひとつであり、地域の方が滋賀県内の自然や暮らしについて、身の回りで調査を行い、その結果を定期的に博物館に報告していただくという「地域学芸員」のようなものです。

任期は１年で、原則として毎年３月後半に募集し、更新すれば何年でも引き続き行うことができます。

（10）はしかけ制度

琵琶湖博物館の理念に共感し、共に琵琶湖博物館を作っていこうという意志を持った方のための登録制度です。

登録を行うことで博物館内外での活動ができ、活動に関する情報を知ることができます。また、自分たちで様々活動を企画・運営することができます。

（11）防災ポータル

インターネットを通じて、広く県民が閲覧できる防災に特化したポータルサイト。県内の緊急情報・被害情報や防災トピックスを発信するもので、滋賀県防災情報マップや、降雪・積雪、環境放射線、地震（気象庁）へのリンクを有しています。

また、地域の水害に対するリスク情報のため、地域の水害に関する「記録と記憶」を収集・整理し、日頃から水害に関する情報を視覚的に提供する「水害情報発信」や、琵琶湖博物館の「湖と人のくらし写真アルバム」など写真のデータベースも構築しています。

（12）地域防災ちえ袋

県が提供しているホームページにおけるコンテンツのひとつで、防災力を向上させるための基本的な情報や、かまどベンチ製作の手引き、県内各地で取り組まれている先進的な活動紹介といった地域の防災活動に役立つ様々な情報を掲載しています。

（13）滋賀県土木防災情報システム

県が開設している雨量、河川の水位、土砂災害等に関するリアルタイムの情報発信サイトで、インターネットを通じて広く県民が利用できるものです。携帯電

話版もあります。

(14) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

県地域防災計画および災害ボランティアセンター設置運営要綱に基づき、ボランティア・ＮＰＯ団体等で構成し、災害時において滋賀県災害ボランティアセンターを円滑に運営するため、平常時から災害時の連携体制や役割分担等のセンター運営について協議することを目的とする組織です。その事務局は社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会にあります。

(15) 滋賀県災害時要援護者ネットワーク会議

災害時における、県域、広域（福祉圏域）、市町域での要援護者の避難および避難生活について、関係者が連携により支援できるように、平常時から県域の支援者および当事者が連携し、協議を行うことで、災害時要援護者支援対策を推進することを目的とする組織で､平成26年３月時点では68の参加団体があります。

(16) 生活防災サミット

生活防災をコンセプトとして、県内各地に広がる特徴的な取組を自慢したり、紹介したりするイベントをイメージしています。こうしたイベントを危機管理センターで定例化して実施することで、地域防災力の更なる広がりを目指すとともに、危機管理の拠点にあって、ムーブメントの構築につながるものと考えます。

(17) 土手の花見

いつ発生するかわからない危機事案に対して、常に高い意識を持ち続けることは簡単なことではありません。また、危機事案発生時には普段行っていることも普段どおりに行うことが難しく、ましてや普段全く行っていない危機対応をいきなり行うことは大変困難です。

地域における減災・防災という社会的活動を息の長いものとするためには､「先人が土手に桜を植えた。春に桜の花が咲くと大勢の人がその土手に集い、花見を楽しむ。そのことで、冬の間に霜柱で緩んだ土手が見事に踏み固められ、梅雨の出水期に備えることができる。」これが「土手の花見」といわれる、防災を意識させないで土手を強化する先人の知恵ですが、このように防災を生活の中の様々な活動から取り分けるのではなく、それらの中に溶け込ませる必要があることを示唆しています。

そのため、普段の生活と防災対策を切り離さないで、防災・減災を意識させないまま防災・減災に誘う「生活防災」が重要となるのです。